

「長崎県教育関係者9条の会」を結成

◆ 学校と地域に「九条の会」をひろげよう ◆

12月8日(土)、「長崎県教育関係者9条の会」の結成集会が諫早市勤労福祉会館で開催され、公私立の教職員や退職教職員などを中心に約80人(公立高校27・高退教12・私立高校2・義務制10・退職者19・民間教育3)が参加しました。

「長崎県教育関係者九条の会」は、「平和への願いや思いを、多くの国民が主権者としてしっかりと意思表示しないと、再び戦争の道にす

ずんでしまう。お互いの立場や信条はさまざまだが、『9条だけはどうしても守らなければならない』という一点で、手を結びたい」と組織したものです。

集会では、結成を記念して東森英男さん(全日本教職員組合書記長)が、「憲法をめぐる情勢と全国教職員のたたかい」と題して講演を行い、自民党の「新憲法草案」や「改憲手続法案」など憲法をめぐる動きにふれ、「新しい政治」をつくる運動の中心に憲法をおいてたたかおうと結びました。

結成総会では、結成に至る経過報告と「申し合わせ事項」と役員候補者の提案を行い、参加者全員の承認を受けました。その後、代表世話人から「当面のとりくみ」の提案があり、参加者からは、「政党・組合の枠を超えて現職はもとより、退職者にも積極的に働きかけたい」「長崎県にこのような組織が結成されることは素晴らしいことです。ぜひ活発な会にしていきたいと思います」「特に公務員たる教員の場合、憲法を守る運動に参加することは『義務である』とさえ思います(憲法99条)」「入会した人に対して、とりくみの提起や会の活動の様子を伝える方法をしっかり確立することが必要だと思います」「歌声のコンサートなど、楽しいとりくみができたらと思います」

「波佐見焼きでネックレスやブローチはできないかしら？」など、活発な意見が交わされました。

県内で、この会に賛同する教育関係者はすでに500人を超えています。この総会を契機に、県下の学校と地域で「九条の会」をつくっていくことが確認されました。

